

第1回 市民と市長のふれあいトーク
報告書（要点筆記）

日 時：平成30年2月4日（日）午後1時から2時30分

会 場：市役所111会議室

出席者：各コミュニティ協議会の代表16名、傍聴13名
市長、市民活動担当部長、市民活動推進課長

1 開会

2 意見交換

（1）運営委員や協力員等人員について

- ・運営委員や協力員、窓口の人数が足りず、仕事量が多いため負担が大きい。
- ・若い方は子どもが小さいなどの理由で窓口はできないことが多く、運営委員に限らず窓口の高齢化も進んでいる。
- ・市で運営委員の定年制度を取り入れてもらえないか。
- ・夜間の委員会は出席しにくいとの声があったので、朝と夜を交互に開催したところ多くの方に参加していただいている。
- ・若い運営委員が少なく、持続していけるのか不安を感じる。
- ・一定の高齢者が町内会長、コミセン会長、防犯会長、防災運営委員など掛け持ちをして、固定化されている。
- ・若い人が入って運営していくためには、必ず会合に参加するのではなく、メールやFacebookを利用するなど柔軟に対応する必要があるのだと思う。
- ・ボランティアに対する評価などケアが必要。
- ・地域づくりは工夫が必要で高齢であってもできるが、管理運営、窓口業務は高齢化してくると大変な面もある。館外視察で多摩市に行った際、事務長と7、8人で窓口をし、事業はボランティアで実施しているとのことだった。工夫と市との連携が必要。

（2）利用の範囲について

- ・保育園の出張所や勉強部屋など、貸し施設のような機能に偏り、コミュニティの拠点という位置づけではなくなってきた。
- ・地域外や市外の方の利用の線引きが困難になっている。
- ・制限を緩和して、利用者のニーズに対応している。（学習室の利用時間延長など）
- ・小学校への呼びかけや、遊べる場所を確保したことで子どもの利用が増加した。
- ・利用者が固定化されていて、新規で来館する方が減少している。
- ・親子ひろば設けることで母親に居場所を提供することができた。市が、コミセンにきた親を子育てボランティア養成講座に誘い、現在はそのチームで活動を始めている。高齢者など、様々な人が関わり合うコミセンで親子ひろばができているのは意味がある。

(3) コミュニティセンターの施設について

- ・事故を想定して全体を把握しなければならない。
- ・エレベーターを設置したことで、高齢者も多く利用することができるようになった。
- ・トイレの問題ではコミセン間で格差がある。
- ・男性、女性でトイレを分けるのではなく、全室個室でもいいのではないか。
- ・イベントの道具が多いので、十分な大きさの倉庫を確保したい。
- ・改修はその都度お願いしているが、規模によっては後回しになってしまう。コミセンだけが市ではないが、できれば迅速に対応していただきたいと思う。

(4) その他

- ・今日の出席にあたり、会則をあらためて読み、コミセンがコミュニティ構想実現のため、地域づくりのためにあることを再確認した。
- ・地域支え合いステーションをはじめ、それぞれのコミセンであったことなどを情報提供してほしい。
- ・コミセンや行政、議会、住民の意思の共有ができていない部分がある。
- ・事業を実施する際、地域団体の協力が多く助かっている。
- ・館内は禁煙にしているが、敷地内は全面的に禁煙にはしていない。室内に煙が入ってくるといふご意見もあるので、敷地内の喫煙について対応を考えている。

3 閉会